

GREEN LETTER

グリーンレター

Vol. 237

2016/07/01

今月の一枚

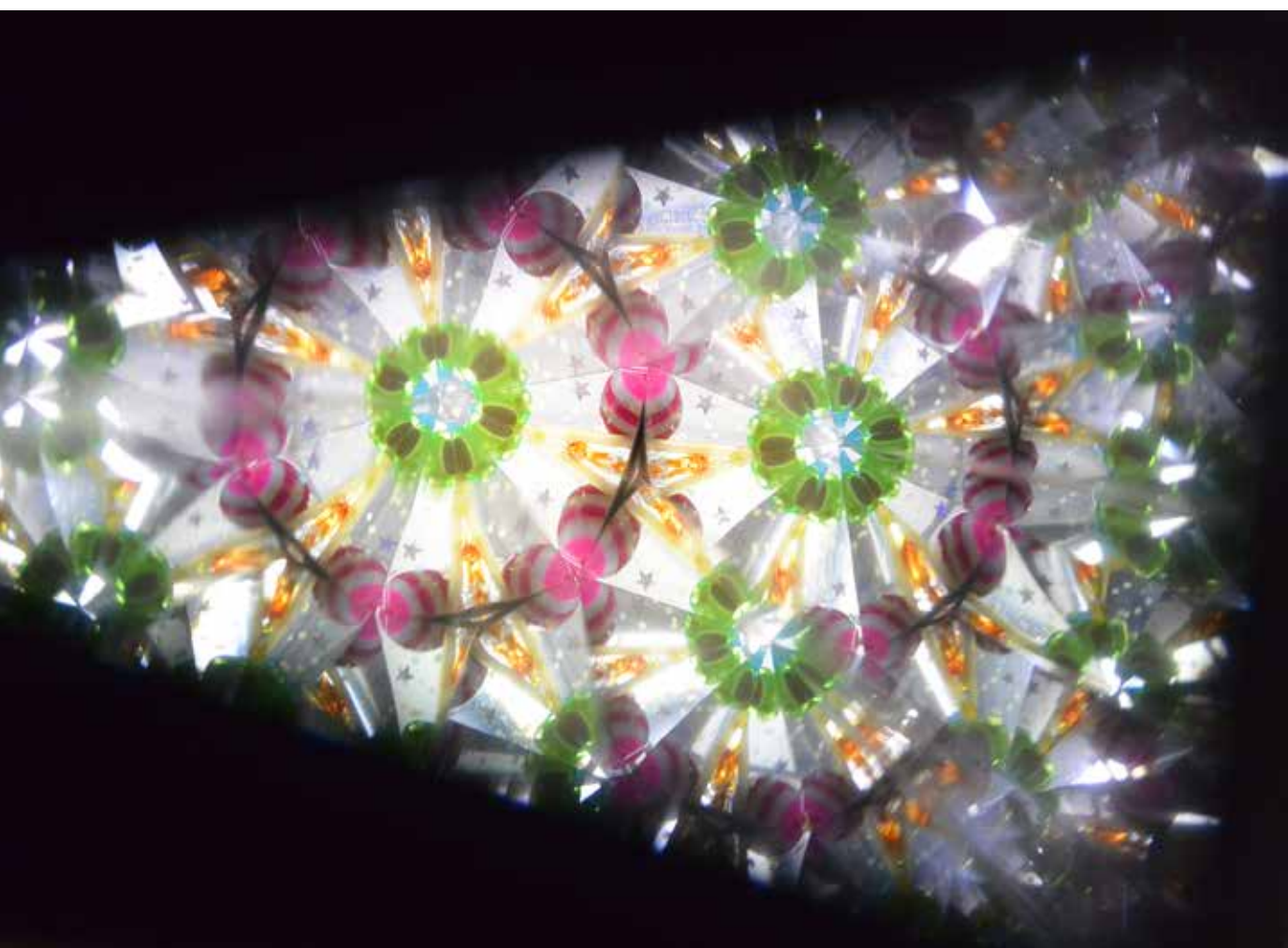
今月のイベント

参加者募集

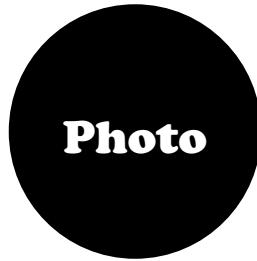
GREEN COLUMN

01. 写生の醍醐味

02. 収蔵庫にあった奇妙な農具



今月の一枚



「魅惑の万華鏡」

表紙写真・文／福田春美

万華鏡を見つけたら、ついのぞきたくなります。大人であれば、そこに広がる美しい世界を体験したことがある方も多いのでは。

さあ、もうすぐ夏休み！昨年、子ども達に大人気だった液体万華鏡作りを今年も開催します。完成作品をのぞいた瞬間、どんな歓声や感想が生まれるのでしょうか。こちらワクワクします。

Event. 今月のイベント

特別展「びほろ昔ばなし」 7月23日(土)～10月23日(日)

プチ工房「おしゃれなはしおき」 7月14日(木), 21日(木)

博物館講座(自然編)「美幌のセミを知ろう！」 7月23日(土), 24日(日)

モノ作り講座「液体万華鏡を作ろう」 7月27日(水)

「夏の写生会 in みどりの村」 7月30日(土)

Information. 参加者募集

プチ工房 「おしゃれなはしおき」

●7/14(木), 21(木) 10:00-12:00, 14:00-16:00 自由に入室。作品ができたなら終了 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料費(100円) ●福田春美(美幌博物館) ●申込み不要。小学校3年生以下は保護者の同伴が必要。

博物館講座(自然編) 「美幌のセミを知ろう！」

【講演会】●7/23(土) 16:00-17:30 ●美幌博物館 2F 視聴覚室 ●無料 ●神戸崇氏(北海道大学) ●申込み不要 【観察会】●7/24(日) 9:30-12:00 ●美幌町内(集合解散は美幌博物館) ●保険料(100円), 野外で活動できる服装, 軍手, 雨具, お持ちの方は昆虫あみ ●神戸崇氏(北海道大学) ●美幌博物館へ電話申込み(7/1-7/20)。キャンセルは7/20まで。それ以降は保険料100円がかかります。対象は中学生から一般。小学生も参加可能ですが、小学校3年生以下は保護者の同伴が必要, 定員25名で締切。当日雨天の場合は室内学習となります。

モノ作り講座 「液体万華鏡を作ろう」

●7/27(水)【午前の部】10:00-12:00, 【午後の部】14:00-16:00 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料費(500円) ●福田春美(美幌博物館) ●美幌博物館へ電話申込み(7/1-7/26)。対象は小・中学生、小学校3年生以下は保護者の同伴が必要、定員16名で締切。

モノ作り講座 「特別展記念！手作りカメラを作ろう」

●8/10(水) 10:00-14:00 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料費・保険料(600円), 昼食 ●八重柏誠(美幌博物館) ●美幌博物館へ電話申込み(7/1-8/4)。対象は小学生から一般、小学校3年生以下は保護者の同伴が必要、定員16名で締切。申し込み後のキャンセルは8/4まで。それ以降は保険料(100円)がかかります。

夏の写生会 in みどりの村

●7/30(土) 9:30-15:00 ●みどりの村森林公園(集合解散は美幌博物館) ●材料費・保険料(200円), 昼食, 飲み物, レジャーシート, 虫よけ ●柳瀬俊泰氏(日展会員) ●美幌博物館へ電話申込み(7/1-7/27)。対象は中学生から一般、定員15名で締切。申し込み後のキャンセルは7/27まで。

〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用, 持ち物 ●講師 ●申込み方法

今月の休館日

4日, 11日
19日, 25日

01 GREEN COLUMN グリーンコラム

写生の 醍醐味

写真・文／福田春美



写生をしたことがありますか。
それは学校の授業や写生大会
などのイベントでしょうか。

スケッチとも呼ばれる写生ですが、調べてみると2つの言葉はややニュアンスが異なるようです。広辞苑には、「スケッチ…概略・印象をうつしとった図。素描。」「写生…事物の実相をうつしとること。客観的描写を主とする態度。」とあります。どうやら、写生の方がより実物を大切に見つめることを指すようです。ちなみにこの写生という言葉は、美術だけでなく、俳句や短歌といった文学の世界でも用いられています。

以前、長野県の山中にて、早朝から薄暗くなるまで、滝の近くで写生をしたことがありました。長い間その場所にいと、次第に体が自然と一体になるような感覚に陥りました。そして、自分は滝の絵を描いているけれども、

これはまるで滝そのものを生み出している感じだ…とも思いました。それは、とてつもなく強烈な印象が残る体験でした。

最近のデジタルカメラやスマートフォンは高性能で、美しい風景を瞬時に、そして色鮮やかに記録することができます。それに比べ写生は、何倍も、何十倍もの時間がかかります。しかし、その分、対象と自分との距離をぐぐっと近づけることができ、深い感動を得られることもあります。野外で描いたものを後から見返せば、その場の音や風の強さ、湿度、そして自分の感情など、目には見えなかったものまで鮮やかによみがえってくることでしょう。

絵の上手下手は関係ありません。夏の過ごし方の1つとして、写生に挑戦してみるのはいかがでしょうか。

02 GREEN COLUMN グリーンコラム

収蔵庫にあった 奇妙な農具

写真・文／八重柏誠



現在、夏の特別展に向けて準備の真っ最中です。気がつくと、残り1か月ほどになっていて、少々焦り気味ですが、なんとか間に合うように頑張っています。

今回の展示は、古い写真や道具から、美幌の歴史を紐解いていくというイメージで、展示を行ってみようと考えていました。これまでの仕事では、埋蔵文化財資料の整理が中心で、民具や農具をあまり見ていませんでした。そのような中で、一昨年前から始まった収蔵庫の大整理作業を機に、今後の展示に使えるような民具、農具の目星を付ける作業も行ってきました。

そんな最中、収蔵庫でなにやら奇妙な農具を見つけました。それは「ガニ股」のような形をしたものと、二股に分かれた「細長い筒」のセットでした。最初に見た時は、マネキンの下半身かと思いましたが、収蔵資料カードを確

かめると農具の一種で、どうやら施肥をするための道具のようです。

何に使ったのか興味が湧いたので、少し調べてみると、細長い筒は、「ラッパ」と呼ばれているもので、貴重な肥料が飛散しないよう、人力で筋撒きするために使った道具でした。一方「ガニ股」は肥料のタンクなのだそうです。独特な形は、肩車をするように肩にかけて使うためのものだったこともわかりました。つまり、「ガニ股」型の肥料タンクから、ラッパ型の筒を通して肥料を撒いていたということです。実際に肩にかけてみると、ぴったりとフィットして担ぎやすい形でした。

奇妙なデザインの農具も、実は合理的で扱いやすく、工夫された道具なのだと思います。思い知らされる出来事でした。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253 - 4

Tel / 0152 (72) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/museum/index.html>

無断掲載・転載を禁ずる

学芸員のつぶやき



.....
娘が幼稚園に入って初めての運動会がもうすぐです。私はなぜか、父母リレーに参加することになってしまいました。老体に鞭打って頑張りたいと思います。(八重柏)